



Bureau
Consulaire
du Japon
à Lyon

musée des
confluences

在リヨン領事事務所・コンフリュアンス博物館共催行事

リヨンで備前焼『用の美』を体感
～備前焼 陶芸家 藤原和 『日本の生活様式の中の備前』～

日本六古窯の一つとして、千年以上の歴史を持つ備前焼。生けた花の自然の美を引き出し、また盛り付けた料理の美味しさを引き立てる『用の美』を持つ備前焼は華道・茶道・そして日常生活で用いられてきました。備前焼の作陶家として第一線で活躍する藤原和をリヨンに招き、備前焼講演会・学校でのワークショップを通して、備前焼の美を紹介するイベント『日本の生活様式の中の備前』を2017年3月7日～9日実施しました。

本イベントは、日本美術に造詣の深かったエミール・ギメが創立したリヨン・ギメ博物館の後継となるコンフリュアンス博物館と外務省在リヨン領事事務所と初の共催イベントであり、仏第二の都市リヨンで日仏文化理解への大きな一歩となりました。

La céramique de Bizen
dans le mode de vie japonais

備前
Kazu
FUJIWARA
藤原

Lyon 7, 8 et 9 mars 2017

本イベントのパンフレット表紙

1. コンフリュアンス博物館での講演会及び体験展覧会

3月7日(水)、コンフリュアンス博物館にて『日本の生活様式の中の備前』の講演会及び体験展覧会が実施されました。美術作品の備前焼としてだけではなく、参加者に備前焼の作陶工程を知ってもらい、また料理・酒・花との融合を体感してもらい、いかに備前焼が日本人の生活を支え、調和し、日本人の美意識を構築してきたかを紹介したいという思いからこの企画が生まれました。また、この背景には、岡山出身の小林所長の郷土への強い愛情がございました。



*La céramique de Bizen
dans le mode de vie japonais*

～日本の生活様式の中の備前～

Le mardi 7 mars 2017
Petit auditorium du Musée des
Confluences
86 Quai Perrache, 69002 Lyon

16h-17h « L'Art du feu, l'Art de la terre »
Conférence sur la céramique de Bizen par Kazu
FUJIWARA, grand céramiste de Bizen

17h15-18h45 « Régal des yeux et du palais »
Découverte de l'harmonie avec la céramique de
Bizen et les mets japonais



コンフリュアンス博物館イベントのフライヤー

(1) 備前焼講演会〈炎の芸術、土の芸術〉

コンフリュアンス博物館でのイベント第一部は、岡山備前から備前焼の陶芸家藤原和氏を講師としてお迎えし、備前焼講演会『炎の芸術・土の芸術』が行われました。

藤原氏は人間国宝である祖父・啓、父・雄に師事し、数々の賞を受賞、現在備前焼を代表する陶芸家として、炎と土の芸術を守り継いでいます。今回は藤原和氏にとってフランス・リヨンにおける初の講演会ということもあり、当日は陶芸愛好家や日本芸術愛好家の方たちが大勢参加し、満員御礼、立ち見が出るほどの人気でした。

講演の内容は、第一線で活躍する陶芸家としての立場からの、千年以上の歴史を持つ備前焼の紹介だけでなく、備前焼と日本人の生活や文化の深い関わり、備前焼が日本人の美意識に及ぼす影響についての

文化論まで及び、参加者からは、「講演を聞いて備前焼に対する理解を深めることが出来た」「大局的な話を聞くことが出来大変満足している」と感想が述べられました。



写真提供 MIHO MATSU MOTO

写真提供 MIHO MATSU MOTO

1-2. 備前焼を目と舌で味わう体験展覧会

コンフリュアンス博物館でのイベント第二部として、美食の街・リヨンで備前焼と和食の融合を堪能する『備前焼を目と舌で味わう体験展覧会』が開催されました。実際に備前焼の器にお料理を盛り付け、花を生け、日本酒を注ぎ、備前焼との色の調和、触感、味を参加者に五感で体験してもらう画期的なイベントで陶芸愛好家、日本芸術愛好家、リヨン市関係者をはじめ大勢の方がお越しになり大盛況でした。

来場者には、藤原氏からのお土産として藤原氏作のぐい飲みが渡されました。参加者はぐい呑みを片手にもって展示用作品を鑑賞し、備前の土のぐい呑みが自分の手に馴染んでいく感覚を楽しまれていました。また備前焼は、注がれた日本酒は長持ちさせ、より一層美味しくさせることで有名です。参加者全員で瀬戸内から直送された日本酒をぐい呑みで乾杯しました。



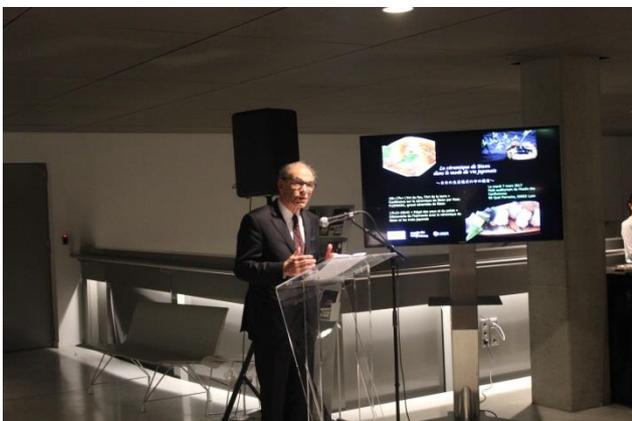
会場には、備前焼と四季や日本料理との関わりを五感で体験して頂けるよう、春夏秋冬の四季折々の花や料理と藤原三代の作品の上に表現した展示を11種類用意し、来場者は、岡山の珍味（ばちこや姫貝の干物）や日本食、日本酒を味わいながら、日本生活様式の中の備前を熱心に鑑賞していました。







当日は、ユベール・ギメ市長、コンフリュアンス博物館理事、ローラン・リヨンメトロポール国際局長、各国総領事、名誉領事、また、岡山出身でパリで活躍される赤木曠児郎画伯夫妻も応援に駆けつけてくださいました。



写真提供 MIHO MATSUMOTO



写真提供 MIHO MATSUMOTO



写真提供 MIHO MATSUMOTO



写真提供 MIHO MATSUMOTO



お花は小原流生け花協会、料理は la Cuisine d' Utako、AJITO、茶の湯は所長夫人小林由紀子さんに御協力頂きました。



2. 学校での陶芸体験ワークショップ

リヨン及び近郊でフランス児童への陶芸体験ワークショップが実施しました。土と炎の芸術とも称される備前焼の本場の土を使った手ひねり体験で、児童達全員が箸置きを作陶し、備前の窯で焼き上げ、フランスの児童達に箸と共にプレゼントするという企画。時間と国境を越えて出来る、世界に一つだけの作品を手にする児童達に備前焼の魅力、そして日本伝統文化の奥深さに触れてもらいたいという願いが込められてこのワークショップが実現しました。また「いただきます、ありがとう」の等の日本独自の美しい言葉や、日本食文化の豊かさを藤原和氏が子供達に紹介されました。

(1) オンブローザ学園でのワークショップ

3月8日(水)、備前焼作家藤原和さんによる、オンブローザ学園中等部の学生たちとの備前焼体験講座が実施されました。参加したオンブローザ学園の50名あまりの生徒さんは、藤原先生、吉川恵司先生のご指導を受けながら、約1時間半に亘り、備前の土に触れ、一緒に箸置きを作りました。

できあがった作品の、あまりの斬新さに、藤原先生も目を丸くして驚いておられました。また、生徒たちも大変貴重な体験として、一生の思い出になったことだと思います。

生徒さんの作られた箸置きは、大切に備前に持って帰り、藤原さんの窯で2週間かけて焼き締められ、一つ一つの個性溢れる作品として、また生徒たちの手元に戻されます。世界にたった一つのこの作品は何千キロを旅して日本とフランスをつなぐ友情の印となるのでしょうか。





2-2、サン・シャルル学園高等部ワークショップ

3月9日(木)、ヴィエンヌ市にあるサン・シャルル学園高等部で備前焼作家藤原和さんによる、備前焼体験講座が行われました。参加された高校生1年生10名は日本語を学習しておられ、日本語での自己紹介も行われました。日本文化へ関心が大変高く、藤原先生による日本の食文化・美意識の紹介をとても真剣に聞いていらっしゃいました。藤原先生は『箸置きは箸休めといわれ、食事中に箸を少し休ませるもの。自分の箸が休みたくなる箸置きを作って下さい。』と説明され、生徒達は想像力を働かせ、思い思いの箸置き作りあげていました。猫や花といった可愛い作品から、指の形の箸置きまでバラエティ豊かな作品が出来上がりました。生徒達が作った作品は藤原和先生の備前の窯で焼き上がります。

自分が作った箸置きが備前の炎と合わさってどのような表情に仕上がるかサン・シャルル学園の生徒の楽しみは続きます。





関連事業

藤原和展示会

本イベントの関連事業として、藤原和展示会がリヨン 1 区のギャラリー・アトリエ28で開催されました。藤原和の作品に加え、祖父で人間国宝の藤原啓、父で人間国宝の藤原雄の作品も展示されました。単純、明快、豪放を旨とした藤原備前は備前を代表する窯元です。

備前焼は、1300年以上の歴史を持ち、窯の火が途絶えたことのない日本最古の焼き物です。

また釉薬を一切使わず、千度以上の高温で2週間ほど焼きしめられた備前焼は、炎のあたる位置、焼き物に落ちる灰の量で表情が大きく変わります。自然との調和を大切にする備前焼の表情をじっくり鑑賞する機会となりました。

3月9日にはベルニサーージュが行われ、岡山市出身の小林所長から挨拶があり、集まった多くの陶芸愛好家の前で、今日までの関係者の労についてねぎらいの言葉がかけられました。また先日コンフリュアンス博物館で行われた備前焼講演会・体験展示会で、備前焼の美しさ・奥の深さに魅了され、今回ベルニサーージュに来たというお客様も大勢いらっしゃいました。



主な報道

本イベントの様子は、瀬戸内海放送の特集番組として近日放映予定です。日本国内の皆様にも是非、リヨンでの記念すべきイベントの様子を、映像を通じて体験して頂けたら幸いです。



地方新聞紙 Le Dauphiné Libéré にサン・シャルル学園のワークショップの様子が掲載されました。

LOCALE EXPRESS

LYCÉE
L'art de la céramique japonaise
s'enseigne à Saint-Charles



→ À l'Institution Saint-Charles, la classe de seconde japonais de Mme Endo-Cadou a participé à un atelier d'initiation à la céramique japonaise Bizen. Les céramiques de la ville de Bizen, qui est l'un des six centres historiques de production de céramique au Japon, ont plus de mille ans d'histoire. L'atelier a été animé par Kazu Fujiwara, artiste céramiste renommé de Bizen. Dans un premier temps, il a fait part de sa passion aux élèves, puis il a expliqué sa façon de travailler. Accompagnés de son disciple en la matière, les élèves se sont prêtés au jeu, en créant eux-mêmes deux reposes baguettes.

(2017年3月12日付)

【最後に】

日本文化が本格的に西欧社会に紹介されて約 150 年が経過する今日、日本文化の奥深くにある様々な理や歴史についてより一層、とりわけ地方中心に文化事業を展開させようということで、在リヨン事務所は従来頑張ってきました。小林在任中、ほぼ年間 1～2 件の手作り文化事業を行ってきました。これらは、日本とは何か、あるいは日本人とは何かという問いを、私達自身が自分達に問いかけるきっかけにもなりました。日本の優れた文化、歴史、自然との融合、生き方、考え方、これらを国際社会の中で、更に多くの方に理解していただきたいという希望に満ちています。本案件の成功には極めて多くの方の御協力・御理解を得ております。外交の最前線で得た皆様からの温かいお気持ちに深く改めて感謝申し上げます。